

令和6年 賀詞交換会
八幡市消防署東部分署 開署式
八幡市二十歳のつどい
海上保安庁管外視察
年末特別警戒
管内調査
出前高校生議会
京都府消防大会
ガールスカウトフェスタ
交通事故防止府民運動スタート式

たじま新聞

京都府議会議員
田島よしみつ

【プロフィール】昭和47年9月生。●[平成3年]平安高等学校卒業。三菱自動車工業(株)京都製作所入社。同社サッカー部(現・浦和レッズ傘下チーム)に所属。●[平成8年]同社退職。龍谷大学経営学部入学。●[平成19年]衆議院議員公設第一秘書。●[平成27年]八幡市議会議員初当選。●[平成31年]京都府議会議員初当選
【現職】●京都府議会 政策環境建設常任委員会、安心・安全な暮らしに関する特別委員会(委員長)。八幡市在住で妻・長男(大学生)・長女(大学生)・次男(高校生)・次女(中学生)の6人家族。

あたたかい京都づくり 加速化予算 1兆44億7,600円

令和6年度当初予算は、原案のとおり可決成立し、令和5年度2月補正予算と令和6年度当初予算で1兆44億7,600万円。府政運営の羅針盤となる京都府総合計画に基づき「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つの視点から「あたたかい京都づくり」を加速化するために必要となる予算を編成しており、その一部をご紹介します。

全ての営みの土台となる「安心」

看護補助者・福祉施設職員処遇改善事業費

人材確保、職場定着を図るため看護補助者や介護・障害福祉職員の収入を引き上げ。[対象者]看護補助者、介護・障害福祉職員月額平均 6,000 円

14億
1900万円

特殊詐欺等総合対策事業費

特殊詐欺による被害を防止するため、捜査活動を迅速化・高度化。犯人の早期特定のために防犯カメラ映像の分析装置を高度化し、直ちに共有するためのシステム導入等を実施。

3500
万円

子どもたちを育み、絆を守る「温もり」

子育ての楽しさ広げる事業費 全国初

企業や大学等を巻き込み「子育て＝楽しい」とポジティブなイメージを拡大。府内の商店街等で若者が企画し子どもが運営する「京都版ミニ・ミュンヘン」を実施。

600
万円

子育てにやさしいまちづくり推進交付金 全国初

市町村が「まち全体で子どもを見守り支える」まちづくりを進めるための計画を策定。条例に基づき知事が認定した計画に基づく取組を支援。

6500
万円

親子通園支援事業費 全国初

保育所等と連携し「子育て」「親育ち」を支援。親も一緒に通園し孤立感を解消。子育てを学ぶ機会を提供。

5100
万円

多様な担い手確保支援事業費

各業界の実態に合った人手不足への対応及び高度人材の育成を支援。農林水産業、建設業、専門的・技術的職業等、業界特有の担い手確保の課題解決を支援。

2億
9100万円

きょうと防災・減災力強化事業費

令和6年7月に危機管理センターが本格稼働予定。自然災害や原子力災害、新興感染症等、あらゆる危機事象に対応。

14億
1000万円

がん対策総合推進事業費

がん医療提供体制の充実や相談機能の強化など、総合的ながん対策を推進。若年のがん患者へのウィッグ購入費用の助成等を新たに実施。

2億
3100万円

希望や活力の源泉となる「ゆめ実現」

生産性向上モデル創出支援事業費

中小企業の生産性・付加価値向上のため、AI やロボット等の導入を支援。生産工程や供給工程等へのAI・IoTの導入、機械化、ロボット化等の取組を支援など。

1億円

植物園 100 周年記念事業費

開園100周年記念事業を実施。次の100 年に向けた新たな取組を始動。

2億
4300万円

京都の文化次世代継承事業費

○小中学生が茶道・華道等の生活文化を実体験し、文化の心を学ぶ機会を拡充。○日本料理の技法や歴史・文化等をデジタル化し、国内外に発信。

1億
1100万円

人・物・情報・日々の生活の基盤づくり

地域交通総合対策費

○地域モビリティサービスの実証運行を支援。交通空白地での自家用車による有償旅客運送、自動運転の実証運行等。○鉄道や沿線地域の観光資源を活用した誘客促進。

20億
3600万円

【西脇隆俊知事】
京都府は、全国と比較して救急搬送時間が短く、搬送が困難な事案の割合も低いですが、搬送時間に地域差があり、搬送件数も増加傾向にあるなどの課題があります。令和4年度から、救急を専門とする医師や学識経験者に意見を伺いながら、救命救急センターなどの三次救急医療体制や、救急搬送体制のあり方について検討を行い、人口当たりの設置数が全国平均を上回るよう、府内初の高度救命救急センターの指定及び救命救急センターの追加指定に向けた公募を昨年9月に行ったところです。

【田島祥充府議会議員】
高齢者救急の増加や緊急性・専門性の高い症例に対応した救急医療の提供体制の強化が必要となるなか、救急医療を取り巻く環境の変化に対応した救急搬送体制の構築に向けて、検討委員会が設置され、「救急アクセスの最適化手法と救命救急センターの機能の充実に関する検討」が行われたと聞きました。府民や患者の救急搬送体制と人材確保・育成について、知事の所見をお伺いします。

救急医療体制のあり方について

患者の救急搬送体制、医師看護師など人材確保・育成

また病院へのヒアリングや現地調査などを行い、今年4月の指定に向け取組を進めています。

ドクターヘリは、現在、関西広域連合で共同運航する7機のうち3機が府域をカバーしていますが、府北部地域の一部は二重三重のセーフティネットが構築できていません。ドクターヘリの重複要請や、多数の傷病者が発生する事案などへの対応が課題であり、府内に基地病院を置くドクターヘリの運航が有効の意見をいただいています。

現在、医師や看護師のマンパワーや医療提供の質の確保、施設・設備など適切に対応できる病院の調査を



人材育成は、救急告示病院などで、医師や看護師が受講する救急の専門研修への支援を行っています。また救命救急センターは、24時間診療体制に必要な人員を確保・配置に加え、医学生、看護学生、臨床研修医、看護師、救命救急士などに救急医療の臨床教育を行う育成の場を国から求められています。今回の救命救急センターの追加指定の公募の条件に「二次救急の役割維持、専門人材の派遣を行うなど、府内の救急医療体制の充実に寄与すること」を設定し、救急医療人材の確保・育成に大きく貢献すると考えています。今後も、府域全体の救急医療体制の充実・強化を図られるよう努めてまいります。

ログラムの実施などに取り組みます。また、こうした風土づくりを土台として、子どもと育つ地域・まちづくりをさらに発展させるなど、「子育て環境日本一」の取組を前へと進めてまいります。

行い、ドクターヘリとの関係も踏まえながら、有用性や課題など、導入可能性の検討を行っています。

救急専門の医療人材確保について、府内の人口10万人当たりの救急科の医師数は、平成28年から令和2年度まで23%増加しました。京都・乙訓・山城北医療圏は大きく上回る一方で、それ以外は全国平均以下で、地域偏在が課題です。これまから救急診療を含む地域医療への従事などを条件とした学生への奨学金制度、府立医科大学大学院の学費免除など、医師確保に取り組んでいます。

地域活動など

京都府議会 ちゃんねる

京都府議会の活動や、議長による定例記者会見の様子などを配信



日々の活動をブログで報告

田島よしみつ で検索

[ホームページ] <http://tajimayoshimitsu.com>

[ブログ] <http://ameblo.jp/tajima1972>

田島よしみつ 公式LINE



まちかどひなまつり



内閣官房・国際博覧会推進本部へ要望



ガールスカウトフェスタ



八幡市民マラソン大会



八幡市消防署東部分署開署式及び消防車両の配置式が東部分署で執り行われました。新名神高速道路全線開通で八幡市消防が担当する救急エリアの拡大に伴い、市民の生命と財産、安心・安全の確保の充実・強化のために東部分署が開署。本署と分署間の連携も強化し、更なる消防力の充実に期待しています。



府政、暮らしのご相談は

京都府議会議員
田島よしみつまで

TEL 075-982-1482

FAX 075-982-1492

〒614-8362 八幡市男山美桜5-29-102 (事務所)

令和6年2月定例会
代表質問
令和6年2月20日



大阪・関西万博の成功に向けたオール京都の取組と文化の世界発信について

関西パビリオンの京都ブースに府民参加型で文化芸術を発信する催しを通年で開催しては？



関西パビリオン イメージ 提供：関西広域連合

【田島祥充府議會議員】

京都の発展に向けた取組や事業が創出されることを通じて、未来の京都を担う人材や企業、産業や文化が育つことが京都における万博の成功だと考えています。現在、より多くの方々に万博の取組に参加していただくため、民間企業や団体が実施する機運醸成や誘客の取組を認証する「大阪・関西万博きょうと推進委員会認証制度」を創設し、その普及に努めています。この間、企業や大学、美術館などへ直接呼びかけを行い、1月末時点で30を超える申請があり、さらに取組の輪を広げるなどVer.2として進化させているところです。

大阪・関西万博の京都府の成功に向け、オール京都で取り組んでいますが、具体的な取組状況は？府民が万博に関わる絶好の機会なので、関西パビリオンの京都ブースに府民参加型で府内各地の文化や芸術を発信する催しを通期で開催し、府内各地への誘客に繋げるべきと考えますがどうでしょうか。会場建設費の高騰で本府の負担増加も懸念されますが、万博を本府の成長と活気につなげる重要性をどのように考えていますか。

【西脇隆俊知事】

万博をきっかけに、人や企業が集まり、異なる文化的背景を持った方との「新たなつながり」を生み出し、

発信し、関係人口や交流人口、参加人口の拡大に繋げ、文化、観光、産業など多様な面で府域の持続的な発展に繋げていくことや、子どもたちが万博を体験することで未来社会を考え、行動していく機会となることなどに必要な予算案を今定例会に提案しているところです。今後とも万博を大きな契機に、京都府の魅力をさらに向上させ、成長と活性化に繋げたいと考えています。

Music Fusion Kyoto International Music Festival（仮称）について

【田島祥充府議會議員】

文化庁と万博に向けた取組も強化され、文化庁との意見交換など、どのように連携して取り組まれているのか。また万博に向けて府内一円を音楽で満たす「Music Fusion Kyoto International Music Festival（仮称）」の予算が計上されています。音楽祭の会場に世界遺産や重要文化財等も活用することで世界へ京都文化の発信に繋がると考えますがいかがでしょうか。

【西脇隆俊知事】

昨年3月の京都移転以来、長官をはじめ職員が、祭りなどの地域行催事、府や市町村、民間団体が主催する事業に積極的に参加され、若手職員を中心に府や京都市と定期的な意見交換や地域文化の視察・体験の機会を設けられるなど、地域文化への理解を深め、地域課題の把握に努められています。文化庁移転で国と地方の距離が近づき、市町村と共に地域の意見を国へ届けるなど、新たな施策立案の参考となるよう取り組んでいます。来年度はこの仕組みを本格化させ、具体的な施策立案に繋げ、文化庁の移転の効果が発揮できるよう、取り組みたいと考えています。

ミュージックフュージョン国際音楽祭（仮称）について、府内各地で音楽に親しめる機会を創出したいと考えています。大阪・関西万博が開催される令和7年度をターゲットイ

ヤーに位置付け、令和6年度にプレイベントを開催し、国内外の多くの方に気軽に良質な音楽に触れていただけるよう、市町村とも連携して、社寺等の文化財や歴史的建築物を会場にするなど、京都ならではの国際音楽祭を開催したいと考えています。さらに令和7年度は、府内各地での取組に加え京都市の「京都の秋音楽祭」との連携、京都市交響楽団との共演など、オール京都で京都市が音楽で溢れるよう取り組み「文化の都・京都」を広く世界へ発信したいと考えています。

淀川舟運の整備状況は？上津屋橋（通称：流れ橋）の復旧工事の進捗は？

【田島祥充府議會議員】

万博会場まで交通手段やルートを選択できれば、楽しみや立ち寄る箇所も増え、地域振興にもつながると考えます。安全で快適に移動できる航路やサイクルロード等のインフラ整備が必要と考えますが、国の淀川舟運の府域の整備状況はどうですか。また、万博会場へのサイクルロード整備に進展があったと聞きました。さらに万博を訪れた方が自転車です津屋橋、通称流れ橋まで足を延ばし、地域の魅力を感じてほしいと考えますが、昨年の台風第7号で流れた津屋橋の復旧工事の進捗はどうですか。

【西脇隆俊知事】

淀川舟運は、国や京都府を含む沿川自治体、民間事業者等で「淀川舟運活性化協議会」を設立し、関係者が連携して、定期船就航に繋げるための社会実験など沿川の魅力を世界に発信する取組を推進しています。京都府は、枚方・伏見間の中型船の就航や、伏見・宇治間のEボートなどの水上アクティビティの実現に向け、国に河道や船着場の整備などを求めています。万博開催までに、船の航行が必要となる枚方・伏見間全7箇所の浅瀬などの対策と、八幡伏見の船着場などの整備を完了予定

子育て支援と少子化対策について

子育て環境日本一を実現した社会。子育てをポジティブなイメージに

【田島祥充府議會議員】

「京都府子育て環境日本一推進戦略」「子育て環境日本一・京都の実現に向けた取組の推進に関する条例」に基づく取組が来年度から本格始動します。どんな相乗効果を発現させて、取組を進めますか。今後の展望、子育て環境日本一の実現の到達点をどのような社会と考えていますか。

若い世代は、子育ては大変そうと結婚や子育てに後ろ向きになっている恐れがあります。子育ては楽しく、自身の成長に繋がるイメージを広げる取組が重要と考えますが、若い世代へどのように働きかけますか。

【西脇隆俊知事】

私が目指す「子育て環境日本一」は、子どもや子育て世代をはじめ、全ての人にとって暮らしやすい京都を実現することです。子どもたちが、心身の状況や置かれた環境にかかわらず、健やかに成長でき、未来に希望を持ち、豊かで幸せな人生を送るこ



色を生かし「子育て環境日本一」の取組を進化させ、長時間労働や家事・育児の負担の偏り、雇用形態による待遇の差など、社会の構造や価値観も変えていかなければなりません。昨年12月「子育て環境日本一推進戦略」を改定し、4つの重点戦略と20の重点プロジェクトを掲げました。併せて「戦略」を前に進めるエンジンに「子育て環境日本一・京都の実

現に向けた取組の推進に関する条例」を制定し、「子育て環境日本一」の実現に向けた基本理念を掲げています。府、学校、事業者などの責務や役割、子育てにやさしいまちづくりを推進するための計画制度の創設、子育て世帯を対象とした住宅・土地に係る不動産取得税の軽減措置の適用対象の拡充などの規定を盛り込み、「戦略」との相乗効果を発揮させていきます。

来年度は、ビジョンの実現を図るために、保育所等と連携した「子育て」「親育ち」を支援する「親子誰でも通園モデル事業」の実施、妊娠・出産の医学的知識とライフデザインを一体的に考える機会の提供を行うプログラムの開発、子育てにやさしいまちづくりを推進する市町村の取組の支援など、予算案を今定例会に提案しました。

戦略会議の提言において、「子育ては大変だ」というイメージを払拭し、若い世代の出産・子育てに対する安心感を高めるべき」とされるなど、京都府の視点が全国的な広がりを見せつつあります。我が国において、約40年前の1986年には、18歳以下の子どもがいる世帯は全世帯の約半分を占めていましたが、2022年には約2割まで減少し、「子どもがいることが当たり前」の社会ではなくなっています。

議員ご紹介のとおり、子どもの数が少なくになると、若者や大人が子どもと触れ合う機会が減少し、子どもや子育てにポジティブなイメージを抱きにくくなり、「赤ちゃんが泣いていてもお互い様」といった意識や、「子どもは社会で育てるもの」という意識も希薄化していると考えています。

「子育てが楽しい風土づくり」の重点プロジェクトの一つとして、「子どもズええ顔」たくさんプロジェクトを実施します。これは、笑顔の子どもが大人や若者の目に触れて、大人の世界に子どもが自然に入っていく取組を実施することで、「地域の中に子

と伺っています。

万博会場へのサイクルロードの整備状況は、令和3年8月に国が決定した「大阪・関西万博に関連するインフラ整備計画」では、サイクルロードの整備が会場へのアクセス向上策として位置付けられています。京都府は「京奈和自転車道」「京都やましろ茶いくるライン」を整備しており、このサイクルロードで嵐山から木津までのアクセスが可能となっています。さらに大阪府などと連携し整備を進める「淀川左岸サイクルロード」と接続し、京都府域から万博会場までのアクセスを可能とすることで、より広域的な周遊環境の充実に繋がっていると考えています。

上津屋橋、通称流れ橋の復旧状況は、昨年8月の台風第7号で流出した橋桁の復旧工事を進めており、経年劣化が進む部材の取り換えも併せて実施しています。今年6月の出水期までに通行が再開できるよう復旧に取り組めます。京都府は、今定例会で、木津川や桂川をはじめ府内各地で風情ある景色を生み出す川を新たな京都観光のコンテンツに活用する「川の京都」ブランドの構築に取り組むための予算案を提案しています。万博を契機に、舟運やサイクルロードも活用して、嵐山や清水寺など来訪者が多い観光地のみならず、京都府域を幅広く周遊する人の流れを生み出すことで、地域の活性化に繋がりたいと考えています。

